



第21回定期地方大会

要求運動・組織拡大の前進

住民の足 ローカル線を守ってゆこう



第235号
発行 山本 泰光
編集 木下 賢一
大阪市北区錦町2-2
TEL06-6354-0700
FAX06-6358-1465

諸要求実現めざし総団結で

発言要旨

8月24日、近畿地方本部は第21回定期地方大会を国労大阪会館にて開催しました。大会は、羽生副委員長の司会で始まり、議長に松本代議員(京滋)・副議長に三宅代議員(大阪)を選出しました。山本委員長が執行部を代表してあいさつ(別掲)。来賓では、日本共産党大阪府委員会より、清水ただし氏、こくみん共済コープ大阪推進本部大阪市東推進課 上床課長から挨拶を受けました。メッセーJ紹介の後、国労西日本本部、大和副委員長より激励と連帯のあいさつを受けました。経過報告を、西澤執行委員が行い、江口書記長が2024年度の運動方針案を提案しました。

討論では10名が組織拡大の取り組みを中心に安全問題や労働条件の改善を求める取り組み等について活発に発言。書記長が討論の集約を行い、運動方針案を採択。その後、予算案の提案・採択。スト権確立、役員改選、大会宣言を採択し、団結ガンバロウで大会を締めくくりました。

◎山口代議員(大阪・鶴ヶ丘駅) 2012年闘争指令1号が発せられてから毎年拡大を行い30名の仲間を迎えている。ある職場で、約2年掛けて西労組に訴え、現場長にも要請し、職場で新入社員の拡大行動を取り組むことができた。

◎長尾代議員(大阪・和歌山車庫区) コロナ禍から突発休が多く、3徹4徹する者もあり、中には超勤が40時間を超えている者もいた。職場の声をメモして、実態を団体交渉で追及し、今年のダイヤ改正以降、要員の声、不平・不満をつかんで、追及してきた成果である。天王寺駅15番ホームの要員削減の問題で、乗務員の立場、駅社員の立場から安全問題を議論をして、会社に追及して

・全ての危険なホームに可動ステップの設置を要求する。
・大阪維新の会による労働組合潰しにカジノ設置を含むIRの悪行の数々は、どうしてもやめさせなければならぬ。
◎長尾代議員(大阪・和歌山車庫区) コロナ禍から突発休が多く、3徹4徹する者もあり、中には超勤が40時間を超えている者もいた。職場の声をメモして、実態を団体交渉で追及し、今年のダイヤ改正以降、要員の声、不平・不満をつかんで、追及してきた成果である。天王寺駅15番ホームの要員削減の問題で、乗務員の立場、駅社員の立場から安全問題を議論をして、会社に追及して

2024年度執行部

執行委員長	山本 泰光 (大阪)	総括、総務部長
執行副委員長	有田 修 (兵庫)	組織総括
書記長	江口 芳生 (京滋)	企画・法対部長、総務
執行委員	小西八十四 (大阪)	財政部長
	西澤宗司郎 (大阪)	組織部長、貨物担当
	木下 賢一 (京滋)	家族会
	宮野 正貴 (京滋)	調査部長、教宣部長
(新)	山下 大輔 (京滋)	業務部長
会計監査委員	三塩 和敏 (京滋)	業務
	竹塚 秀二 (大阪)	
	井上 賢治 (大阪)	

【退任された役員】

羽生 隆盛さん、ご苦勞様でした。

組織強化拡大

この一年間、組合員の皆さんの奮闘により大阪貨物分会で拡大があった。労働条件改善、要求実現のために職場で頑張っている国労。その姿が見える日常的に活動している国労が存在するからこそ成果に繋がっている。拡大を勝ち取るために諦めたら終わりである、引き続き組合員全員の奮闘をお願いする。

安全サービス地方ローカル線を守る闘い

会社は委託費削減、経費削減を強行し、安全を脅かし、窓口の閉鎖、遠隔MV拡大を強行している。会社は人減らし合理化を諦めることなく続けている。この施策を止めるために、どう要求し、運動していくのが重要だ。コロナ感染を理由にした非接触、人を介さないという言い訳はパソコンに不慣れな高齢者など

に襲いかかっている。安全を守るためにはまず人、必ず駅員が必要であり、適切な要員配置が必要である。儲ければ何でも良いという会社と対峙し、安全を守らせることができるのは国労だけである。地方ローカル線問題 芸備線の一部区間を対象にした、再構築協議会が開催された。

国労の姿が見える日常活動を

山本委員長あいさつ (要旨)

れた。わざと利用しにくい列車を設定し、乗せないようにしている。かと思えないダイヤを変えさせなければならぬ。鉄道とバスのネットワークで住民サービスが維持できるように運動する必要がある。私たち国鉄労働組合が先頭になり、地方ローカル線を、

り戻すために運動を進めなければならぬ。ロシアのウクライナ侵略、イスラエルのガザ侵略、全世界の労働者が決起しなければ何も変わらない。25春闘は客貨一体、グループ会社での組織拡大を見据えた統一闘争として、大幅賃上

げ、労働条件の改善はもとより『大軍拡ではなく税金は生活向上に使い差別と貧困の悪政をやめろ』など国民的諸課題を結合した国民春闘として闘うことが求められている。ヤマ場ではストライキで闘うことを議論し、決定したい。8月6日、広島で開催された原水爆禁止2024年世界大会で国際会議宣言が採択された。戦争を起すのは人間、戦争を止められるのも人間である。平和憲法を守るために一つ一つ危険な動きを排除しながら、抗いながら運動を進めなければならぬ。25春闘勝利、組織強化拡大、安全輸送確立、労働条件改善、9条改憲を許さず平和と民主主義を守るために近畿地方本部は運動の先頭に立って、闘う決意を申し上げて執行委員会を代表しての挨拶とする。

来 賓

- 日本共産党 清水 ただし氏
- こくみん共済コープ大阪推進本部 大阪市東推進課 田口 係長
- 西日本本部 大和忠明 副委員長

祝電・メッセージ

- ・新社会党
- ・全大阪労働組合総連合
- ・全日本港湾労働組合関西地方本部
- ・化学一般関西地方本部
- ・全印総連大阪地方連合会
- ・近畿労働金庫梅田支店
- ・国労東京地方本部
- ・国労北陸地方本部
- ・国労岡山地方本部
- ・国労広島地方本部

いくことができなにか検討してもらいたい。
 ・集まって議論しない国労組織の弱さがある。組合員で考えて動いていきたい。
 ◎山家代議員(大阪・大阪駅)
 ・寝台特急サンライズ上り列車の定時運行率が悪く、改札輸送、後方担当社員などが仮眠時間を削られ満足に眠れない。運転時刻の見直しを求め
 ・非常に乗降が多い御堂筋口南口が無人数化され、苦情を改札の社員が引き受けている。橋上改札は要員が旅客の数と見合っていない状況、社員から何とかならないかと要望が出ているが、管理者は『現状で対処されたい』という回答に終始している。余裕のある要員配置を求める。
 ・希望する12歳未満の育児社員を時短勤務及び深夜業務外を認めることを求める。
 ◎中尾代議員(大阪・京橋車掌区)
 ・ダイヤ改正以降、長時間乗務が増えている。長時間乗務の影響を第三者機関を通じて証明することはできないか。
 ・回送列車の車内点検で、一

人で対応しきれない場合があり困っている。メンテックや駅社員の手配を求める。
 ・ダイヤ改正交渉の時に、行路の提示してもらいたい。
 ・京橋車掌区乗泊の建物の老朽化で、この夏二〇名分ぐらいの部屋の冷房装置が故障し、直っていない。他の車掌区に泊まったり、京橋のホテルに泊まったりしている。先日、ホテルの手配がつかず、女性の乗泊に男の当直係長を泊めた。パーテーションでキチツとしたと言っているが、仕切ってもダメという感覚が無い。
 ◎小関代議員(兵庫・芦屋駅)
 ・会社は、非管理駅の一部を無人化にして、バリアフリー対応や券売機の券詰まりなどを管理駅から駆けつけて対応をしているが、明らかなサービス低下である。
 ・駅の運転業務について、ほとんどが営業の仕事で技術力が低下している。6月11日から12日の輸送障害で、向日町駅の信号トラブル、茨木駅の有効長オーバーも、駅で対応していればもっと早く運転再開できた。

・ローカル線の問題。加古川線西脇市〜谷川間のあり方について協議する法定協議会が2025年10月にも設置されるようとしている。近畿レベルで地域を巻き込んだ取り組みはできないか。
 ・組織について、近畿として今後少人数になった時の体制をどう考えているか訊きたい。
 ◎大塚代議員(兵庫・神戸保線区)
 ・昨年度、保線区の業務体制の見直しがされた。新幹線では4月に神戸と姫路の保線区を神戸の新幹線技術センターに集約、在来線も6月に近畿管内15保線区を9保線区に集約した。団体交渉で問題点や矛盾を追及したい。
 ・現在、信号担当になつていくレール絶縁交換、撤去、復旧作業を保線単独で実施するということが、要員増の案件を事務連絡だけで済ませようとする会社の姿勢が問題。
 ◎惠阪代議員(大阪・吹田機関区)
 ・貨物会社の利益剰余金約300億円は長年社員の賃金を抑制してため込まれてきたものであり、これらを取り返す運動が必要となる。
 次期春闘ではストライキを構えて闘うことを上部機関に要請をお願いする。
 ・6月1日に京都貨物駅の西日本ロジスティクス梅小路営業所において一名が加入した。西日本ロジでは昨年一名が加入している。加入はオルグで国労の宣伝に努めたことが大いに関係している。貨物協議会以外でも是非取り組みを検討して頂きたい。

◎大内代議員(京滋・米原列車区)
 ・乗務員準備時間が減らされた。近郊については何とか間に合うが、優等乗務については業務量が多く、全く足りない。このことは見直し交渉以前より主張していたが、会社は「時間は足りている」との一点張り。先日の交渉で労基署への相談も見据えていることをちらつかせた結果、みやこ列車区では、準備時間からみ出した分を超過として支払わせることになった。他の職場にこの流れを波及させて、過去の分も遡って支給や準備時間の延長に繋げていきたい。
 ・米列では平成採用の社員が、合計6名国労に加入してくれた。我々には彼らを加えたい責任がある。最後までおかしなことはおかしと言いつつ奮闘したい。
 ◎山下代議員(京滋・京都電車区)
 ・今回運転適性検査が見直しされて、国労の運転士が一人復帰することになったが、無呼吸症候群の検査が終わっていないということで、添乗す

書記長集約(要旨)

10名の発言を頂いた。多くの代議員から組織拡大や現場の問題、ダイヤ改正以降の取り組み等について発言があった。近統、貨物会社は、大きく儲け優先の方向に舵を切りつつ、職場の労働条件を悪化させてきている。長時間労働当たり前、機械化、システム化、デジタル化によって人が余計しんどい労働条件におか

れている現状がある。JR関係職場で働く労働者の労働条件改善を求めていくために、現場で闘うことが第一である。近畿も地区本部、分会と力を合わせていきたい。春闘について、来春闘はストライキでという発言があった。毎年、西日本・本部には来春闘に向けても意思統一をしていきたい。組織拡大について、なかなか進んでいない

という現状だが、確実にその芽は大きくなってきている。声をたくさん頂いている。それぞれの現場で他労組の声、悩み等を受けながら、やり切るんだという構えで力を合わせて頑張っていこう。引き続き安全輸送の確立、労働条件の改善、全ての活動を組織拡大運動に結びつけ、近畿地本が先頭に立って闘い抜く決意をのべて集約とする。

る形となっている。無呼吸症候群の試験も合わせて行い、すぐに運転士見習いとして、機器が触れる状況にすることが大切。また、3回目の運転適性検査不合格となった社員に対する見直しする余地があるのではないかと。
 ・シニア社員になられた先輩のやる気が見られないということがある。
 「『いいおじさん』を飛び越えて『都合のいいおじさん』

になっておるんじゃないか」と言われて頂いた。私も加入して数年になるが、思うことは一杯あるが、後悔したことは一度もない。是非自信を持って先輩方にオルグ活動をして頂きたい。
 ◎森下代議員(大阪・鳴野駅)
 ・職場でお金を盗んだのに会社が公表しないという話がある。なんで公表しないのか腹立たしい。このことについて追及してもらいたい。

2024年近畿地本機関紙コンクール結果

近畿・教宣部

機関紙大賞 『国労天車』 天王寺車掌区分会

入選 『国労米列ニュース』 米原列車区分会

『ほんせんdigital』 米原列車区分会 業務部

『国労兵庫地域分会』 兵庫地域分会

特別賞 『国労大阪』 大阪地区本部

以上 5紙